

摩周 神秘に染まる 道内各地にオーロラ

A

太陽の表面で起こる爆発現象「フレア」が発生している影響で、北海道内の各地で12日夕方から低緯度オーロラが観測された。釧路管内弟子屈町では、摩周湖の湖面や冠雪した斜里岳（1547㍎）の上空が赤く染まり、幻想的な

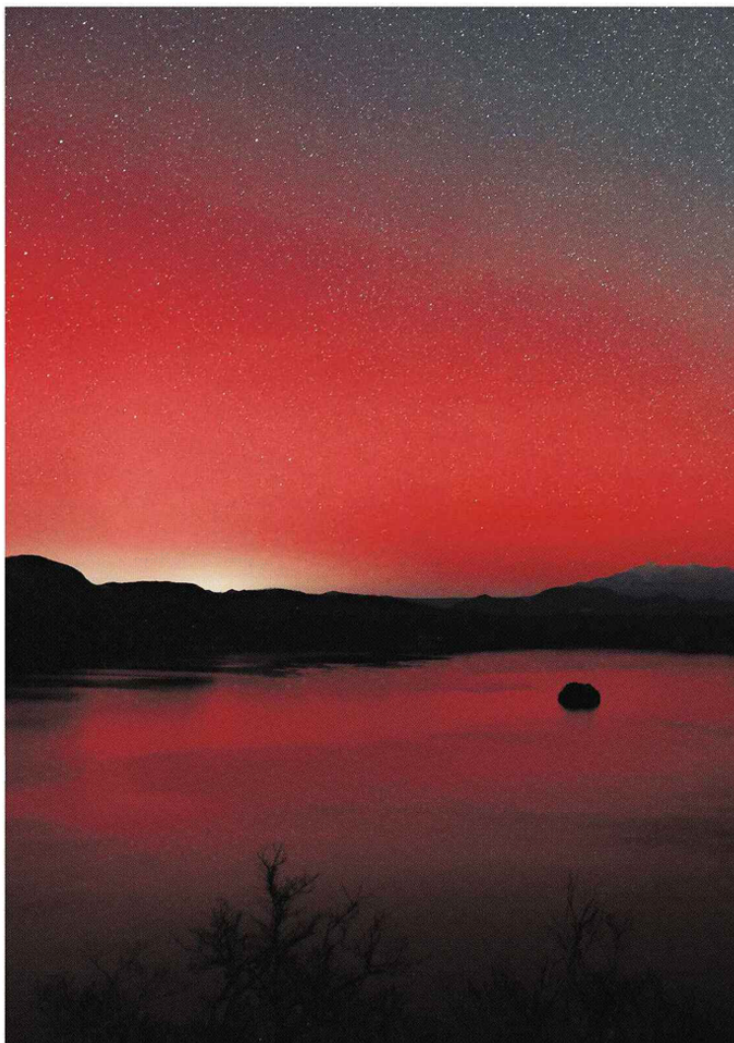
霧囲気となった。

低緯度オーロラは、フレアの影響で磁気嵐が激しく発生した際に、低緯度地域で見られる現象。摩周湖第一展望台でオーロラを撮影していた北見市の写真愛好家鈴木隆男さん（70）は「湖面まで赤く染ま

る写真が撮れてよかった」と話した。

なよろ市立天文台きたすばる（名寄）によると、フレアの発生は活発で、来年にかけて再度観測できる可能性があるという。

（河田俊樹）



北の空と摩周湖の湖面を赤く染める
低緯度オーロラ＝12日午後7時5分、弟子屈町（小松巧撮影）

2025年11月13日（木） 朝刊 全道版 25ページ

B

卓上四季

2025. 11. 14

いまをさかのぼること800年余の昔、京の都の夜空にあやしい赤い光が現れた。人々は天変に恐れおののく。凶事のきざしではないかと▼藤原定家は日記「明月記」に書いている。日没後、北から北東に赤気が出た。遠くの火事のように赤い光と白い光が入り交じっている。不思議で恐るべきことである▼この赤気、つまり赤い光はのちの研究で低緯度オーロラだったと判明する。明月記には超新星や日食の正確な記述もあり、天文現象の古記録として価値が高い。名高い歌人である定家には科学者としての顔もあったのだ。オーロラ研究者の片岡龍峰さんの著書にくわしい▼神秘的な光はいつの時代も人のところをとらえる。きのうの本紙に掲載されたオーロラの写真。摩周湖の湖面を染める深い赤にうつとりする。撮影した小松巧記者に聞くと、露光時間は20秒だったが、「肉眼でも北の空がうつすら赤く見えました」▼オーロラが生じるのは、地球から遠く離れた太陽の活動が影響している。太陽の表面で大きな爆発現象「フレア」が起きると、極地からはるかな低緯度でもオーロラを観測できる場合がある▼フレアによる磁気嵐は通信障害やGPSの誤差を招く。太陽はいま活発な状態にあるから、そちらの心配も必要だろう。と書きつつ、やっぱりこの目でオーロラを見てみたい。

2025年11月14（金） 朝刊 全道版 1ページ



年 組 名前

道新でワークシート

- (1) Aの記事を読み、北海道各地で観測された低緯度オーロラの発生原因として正しいものを2つ答えなさい。

ア：太陽表面の爆発現象

イ：大気中の水蒸気爆発

ウ：激しい磁気嵐

エ：局所的な寒暖差

☐
☐

- (2) Aの記事に掲載されている「摩周湖を赤く染めるオーロラの写真」についての説明として最も適切なものを、Bの記事を参考にして答えなさい。

ア. 撮影者は鈴木隆男さんで、肉眼では全く見えずカメラでしか写らなかった。

イ. 撮影者は小松巧記者で、肉眼でも北の空がうっすら赤く見えていた。

ウ. 撮影者は小松巧記者で、露光時間はわずか1秒だった。

エ. 撮影者は片岡龍峰さんで、オーロラを研究するために撮影した。

☐

- (3) Bの記事を読み、昔の人と現代の人のオーロラに対するとらえ方の違いについて、次の問いに答えなさい。

- ① 次の空欄にあてはまる語を、記事の中の言葉を使って答えなさい。

◎オーロラを見て、昔の人たちは【 a 】と恐れおののいたが、
現代の私たちは人の心をつかむ【 b 】したものにとらえている。

【 a 】

【 b 】

- ② なぜ、同じ現象を見ているのに、受け止め方がこれほど変わったと考えられるか。
あなたの考えを書きなさい。